

## No.2380

### 伊東温泉泊まりでたっぷり散策

### 伊東市内丸山公園から大平山と遠笠山

実施日 2008年11月29日(土)～30日(日)

天候 晴れ

リーダー 横山 玲子

参加者 上野キヨ、横山玲子、若村貴世子、近田芳子、金丸徐子、張越隆、若村勝昭、服部美千代、一柳昭、ゲスト清水玲子

計10名

費用 宿泊費 6,670円(3人部屋)

交通費新宿 伊東 3,000円

バス1,000円、タクシー130円

計10,800円

タイム 29日 伊東駅(9.58～10.05)  
丸山公園(10.10～20)  
大平山(11.43～12.35)  
芝生の広場(12.46)分岐  
渓谷コース(13.10)丸山公園  
(14.24～14.30)朝光寺(14.38)しながわ荘  
(15.00)泊  
30日 しながわ荘(7.55)郵便局前(8.09)バスセンター前(8.45)遠笠山登山口ゲート(10.25～10.30)遠笠山(11.05～12.00)ゴルフ場(12.50～14.20)バス伊東駅(13.15～15.20)

幸運にも二日共に風も穏かな快晴に恵まれました。丸山公園を過ぎてからの尾根コースは殆んど樹林の中で展望なし、大平山の頂上に着いてやっと空と海が現れ伊東の市街、港を見下ろすことが出来ました。



ここで昼食、芝生の広場までは段々をぐ～んと下り、またぐ～んと登

り返して展望台へ、ここからは真鶴半島から箱根の山々までが見えましたが残念ながら富士山は雲の中でした。気を取り直し下りの渓谷コースへ。標高は577mの大平山ですが、これがなかなか厳しい。ハイカーが少ないのか踏み跡も細くテープを頼りに進む。



尾根コースより樹林は深く暗い。急坂の路肩はあるや無しや、沢沿いの石には青こけ、無言でひたすら足元に集中して下ること1時間、車道に出て全員ヤレヤレでした。後は舗装道路をのんびり歩き朝光寺を経て品川区の保養所、しながわ荘に3時に到着、4階建て客室15室、サービスもよく気持ちのいい温泉宿でした。そしてお安い!

翌日は7時半からバイキング朝食、8時9分のバスに乗るにはゆっくり食べる時間が無く慌ただしい食事となりました。

バスに乗り運転手に「矢筈山に登るので鹿路庭峠で降ります」と言ったところ「そこは停留所ではないので止まらない」と言われました。このバスは路面バスでなく伊東駅と天城高原、ゴルフ場間のシャトルバスなので乗り降りの区間が決められているのです。困った顔の私に運転手は「サービスセンター前で降りるといいですよ」と教えてくれました。センター前?? そんなの地図に無い。どこにあるのだと考えているうち

にバスはグングン高度を上げ矢筈山が下の方になってしまいました。

この運転手は矢筈山を知らないのだ、遠笠山と混同しているのだ、もうこうなっては仕方が無い今日の山行は遠笠山に変更だ。(矢筈山 816m 遠笠山 1196 m) センター前で降りた私たちに「あの路に行くのですよ」と運転手は教えてくれた。私はくわしい説明をセンターで聞こうと思ったのですがまだ時間が早く閉まっていた誰も居ませんでした。



標高  
1000メートルに近い  
高原、空は  
青く澄みわ  
たり、明る

い日差しは暑くなく寒くなく、歩くには最適。前日の渓谷コースの暗く危ない山道とは大違い広い車道、何より遠笠山の頂上の電波塔が目の上に見えるではないか。

みなさん足取りも軽く歩きはじめました。(本当は怖い魔の分譲別荘地でした) 雑木林の中に点々と別荘があり道路は縦横に別れ道標はあっても別荘の持ち主の名前だけ。ゆるやかな登り坂、木の間から富士山や南アルプスも見えます。気分よく歩いていて1時間が過ぎまだまだ別荘地・・・いつの間にか東の方角に歩いている。みんなは私より先をドンドン歩いている。やっと右にカーブして登る。そしていよいよ行き止まり。でも幸運なことにそこに犬を連れた男性と出会い道をくわしく教えてもらうことが出来た。もし彼に会わなかった

らこの魔の迷路から抜け出せなかったかも。

何しろ車も通らず、別荘も殆んど人の気配なしでした。

登山口のゲートにたどり着いた時はホッとしました。

遠笠山の頂上は何本もの電波塔が建っていて気分が半減しますが展望は最高でした。ゴルフ場の上に万二郎・万三郎の天城の山が目前に大きく迫って見えます。足下の光る相模湾には伊豆七島、ここでゆっくり昼食。往路をゲートまで下りゴルフ場のバス停から伊東駅に。

今回は思いがけず計画変更となり、リーダーの判断ミスで参加者の方に無駄な体力と時間をロスさせてしまい申し訳ありませんでした。天候に恵まれたのが幸いし、また歩くことを生き甲斐にされているこぶし会員の方々なので一言も文句を言われなかったこと感謝致しております。

これではリーダーとして失格だと反省し、もうここが引退の潮時と思い知らされました。

でも参加された皆さん遠笠山もよかったですよね～

(記&写真・横山 玲子)

